令和７年度第１回伊勢市まち・ひと・しごと創生会議　議事要録

◆日時　　令和７年 11 月 25 日（火）19：00～20：30

◆会場　　伊勢市役所東館５階　5-3・5-4 会議室

◆出席委員

中村 三男委員、松月　菜生委員、福村 伝史委員、中村 美香子委員、齋藤 平委員、川上 香里委員、北村 和也委員、鈴村 亜希子委員、西城　宏樹委員、秋山 則子委員、山川　一子委員

◆欠席委員

中村 基記委員、北出 学委員、安藤 大作委員

◆出席職員

情報戦略局【情報戦略局長、企画調整課長、同副参事、同主幹、同主事２名、同職員、デジタル政策課長、文化政策課長】

環境生活部【環境生活部参事、市民交流課副参事、環境課長】

教育委員会【学校教育課長、教育メディア課副参事】

健康福祉部【福祉総合支援センター長、同副参事２名、健康課長、保育課長、子育て応援課長、高齢・障がい福祉課長】

産業観光部【商工労政課長、同課副参事、農林水産課長、同課副参事、観光振興課長、観光誘客課長】

都市整備部【基盤整備課長、都市計画課長、住宅政策課長、交通政策課副参事】

危機管理部【危機管理課長】

◆傍聴者　なし

◆結果概要

（１）　諮問

（２）　第３期伊勢市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）について

・各委員からの意見等及び市の回答は次のとおり。

重点戦略１　未来を支える人づくり

<施策１　子どもを産み・育てやすい環境整備>

・親になる人に対して、基本的な子どもへの接し方や発達・病気等総合的なことを学んだり習う機会が少ない。虐待防止や子どもの安全安心な環境という意味でもこのような取り組みが必要なのではないか。

⇒そのようなことも視野に入れ、課題や取り組みの方向性を整理している。

<施策２　教育環境の充実>

・AI に対する良い点・悪い点も含めたリテラシー教育を進めていくということで良いか。

⇒AI 等に対して良い点・悪い点を理解したうえで、正しく使える力を身につけることが大事だと考えている。

<施策３　地域・職場を支える人材の育成・確保>

・全国的に働き手の人材不足が課題となっているが、外国人の受け入れについてはどのように考えているか。地域で共に歩んでいくという観点も含め見通しがあれば教えてほしい。

⇒市内の外国籍の人数は約 1,500 人で、県内では人口に占める割合が低い状況である。外国人の方も日本の文化等を理解していただくと同時に、受け入れる側も相手のことを理解する必要があり、『地域・職場を支える人材の育成・確保』は外国人を含めた方向性となっている。
介護・福祉や農業では若い人材を確保するのが難しい現状があり、そういった分野で人数は少ないものの、外国人材を雇用しているといった話を伺っている。

・そもそも外国人を多く受け入れられるような大きな工場等が市内にはない。まずは日本人・外国人問わず雇用の場が必要なのではないか。

・外国人に対する防災などの対策も必要ではないか。

<施策４　自分らしく生きられる環境整備>

・出会い支援センターにはたくさんの登録者がおり、多くのイベントがあるが、成婚までいくカップルがどの程度あったのかわからないため教えてほしい。

⇒出会い支援センターでは、年に 3 回程度出会いイベントを開催しており、令和 6 年度は 22 組のカップルが成立した。また、恋活マッチングサポート（出会い支援センター登録者同士のマッチング）では 39 組の顔合わせを実施した。成婚は任意での報告となっており、追跡は難しい。

<施策５　移住・定住の促進>

・移住の PR をしていくにあたり、特定のターゲット層は決めているのか。

⇒特定のターゲット層は決めておらず、様々な年代層の相談を受けている。

・若い世代に移住してもらうためには、産婦人科や小児科が近くにある等子育て環境整備を手厚くしていかないといけないのではないか。

・移住相談の中で、移住につながらない方はどういう理由なのか。鳥羽市など近隣市町では補助金が手厚いようであるが、伊勢市では補助金等はあるのか。

⇒一定の要件を満たした東京圏からの移住者への移住支援金がある。また、空き家の購入や創業支援の補助がある。

重点戦略２　まちの躍動・輝きづくり

<施策１　文化力の向上>

特に意見なし

<施策２　観光による賑わいづくり>

・第 2 期計画期間にコロナの影響で観光産業は大ダメージを受けた。今後、同じような非常の事態が起きたらどうしていくのかといった視点も必要である。

・ホテルがたくさんできてきたが夕食がついていないホテルもあり、夕食難民が増えているという話を聞く。そういった方に利用いただけるような飲食店が増えれば、まちの活性化にもなると思うがそういった考えはないか。

⇒泊食分離のサービス提供のビジネスホテルが多くなっている。夕食を食べる飲食店を求める宿泊者が多くいることは、宿泊事業者だけでなく、地域一体で稼げるチャンスである。これを機に観光消費額の増加を目指していく。また、お店の情報など観光案内の充実にも努めていく。

・市内のシェフたちの高齢化に伴う店の縮小や閉店等で伊勢市の美味しい地場産品を提供できない状況になっている。そこを支援していなかいといけないのではないか。

<施策３　商工業・農水産業の振興>

・取り組みの方向性に「企業誘致」という文字が明記されていないのはなぜか。

⇒誘致できる土地が無いのが現状である。現在の企業支援策は製造ラインの増設や高台への移転がメインとなっている。そのような中、朝熊のほうにある県有地を県と調整しているところである。また、中村町の浄化センターの用途廃止後や廃校舎の活用等も検討していく。

・農水産業の担い手の確保として、他県の例では農業留学等も実施しているようである。県内での実施事例や実績を教えてほしい。また、今後どのように担い手を作っていくか聞かせてほしい。

・大きな農業法人を誘致したら、農業の担い手の従業員がまずはそこで働いて、技術を習得して、自立していく、そのような担い手の確保の方法もあるのではないか。

⇒県内での農業留学の事例や実績は把握していない。ＪＡの子会社で農業研修制度があり、そこで研修を受けた人が後継者や認定新規農業者等になるという実績がある。

<施策４　商工業・農水産業の振興>

特に意見なし

重点戦略３　暮らしの安心・快適づくり

<施策１　自然災害への備え>

・市内の保育所でハザードマップの危険なところに立地している所がある。何か対策は考えているか。

⇒北浜地区にある 3 か所かと思うが私立保育所であり、移転を促すのは難しい。

・私立であるが、子どもの安全のことを考えると対策は必要ではないかと思う。県知事は子ども施策に重点を置いている。移転費用の補助メニューもあると思うので、そのような案内をしてもらうといいかと思う。

<施策２　誰一人取り残さない福祉>

・伊勢市は、働きづらさを抱える人たちの短時間雇用など、先進的な取り組みをしていると認識しているので、今後も頑張っていただきたい。

⇒令和 6 年度から働きづらさを抱える人を、短い人は週 1 回、1 時間から会計年度任用職員として市が雇用している。これまで 17 名を雇用し、そのうち 5 名が一般企業への就職に繋がっている。今後は、短時間雇用の取り組みを一般企業でも実施してもらえるようにしていきたいと考えている。

・施策 1 にも関連するが、外国人に対する何らかの対策も考えてほしい。大学でも EPA を利用したベトナム人の看護師候補者に対する日本語支援に携わっている。

<施策３　暮らしやすい生活環境づくり>

特に意見なし

<施策４　生活を支える基盤整備>

特に意見なし

・（全体に対して）予算も限られている中で全部の事業をすることはできないと思うので、選択と集

中を意識して取り組んでいただきたい。

（3）　その他

・今回出た意見等を元に修正案を作成し、次回会議で審議いただく。